

「厄介」で片付けさせない税金のこと

鳴門市第一中学校3年 西岡 葵唯

「生きているだけでお金がかかるなんて、厄介だなあ。」

私は、これまで税金について、このような印象しか持っていなかった。消費税、住民税、所得税…私たちが生活するうえで、様々なことがらに対してなにかと干渉してくる税金。税金についての知識がなかった以前の自分には、面倒なもの、という考えしか出てこなかった。

私は小さい頃、突然の肺炎で病院に搬送されたことがある。頭がぼんやりとして、心細くてたまらなかったときに、救急車の中で、励ましながら、すぐに処置をしてくれてとても安心した覚えがある。数日ばかりの入院だったものの、そのときは、たくさんのお金を払わなければいけないのかもしれないと怖がっていた。しかし、退院後もそのような請求をされることはなく、とても不思議だった。そういえば、と思い出して、当事りのことについて尋ねると、母は「ああ、それは税金のおかげなんだよ」と話してくれた。

それにとっても驚いた私は、インターネットや資料から、医療費と税金の関係について調べてみた。すると、二つの事が分かった。一つ目は、あの日、処置してもらったときにお金がほとんどかからなかったのは、税金によって、医療費の負担がされていたからだということ。もう一つは、これが当たり前ではないことだ。他国との医療費の負担額を比べた資料でも、日本の自己負担額が少ないことは一目瞭然であった。また、関連記事から、アメリカでは、救急車を一回呼ぶのに何万円もかかる、ということも知った。もし日本に、税金で医療費の負担をしてくれるという制度がなければ、いま生きることすらままならない状態になっていたのかもしれない。

小さなきっかけから、税金について少しふれてみると、想像がつかないくらいたくさんしたこと、私たちの身の回りのあらゆる場面で税金が役立てられていることが分かった。例えば、今鳴門市が行っている「中学生の英語検定受験の無償化」もその一つに含まれる。これにも、税金から集められた市の予算から使われている。私が英語検定を受けようと思ったのは、この取り組みがきっかけである。

納税は国民の義務である。税金は、私たちが心地よい生活を送るために必要なものに、あてられているお金だ。「生きているだけでお金がかかる」のではなく、生きるためにこのお金が納められなければいけないのだ。「納税は面倒だ」と決めつけて、関心を持たないのではいけない。何に役立てられているのか、そう考えを巡らせることが大切だ。

誰かが納めている税金が、あなたを助けている。また、あなたが納めている税金が、誰かを助けている。私も、これからは、よりよい社会をつくる一員として、その自覚を持って、きっちりと税金を納めていきたいと思う。